

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2011年2月1日～2011年3月31日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第218回～第221回）
3. IASB及びFASFに対するASBJのコメント（2011年2月1日～2011年3月31日）
4. IFRS財団、鷲地隆継氏をIASB理事に指名
5. 第11回各国基準設定主体会議（NSS会議）に加藤副委員長が参加
6. 韓国会計基準委員会 Chung Woo Suh 委員長来日、西川委員長と対談
7. IFRS Conference in Taiwan に西川委員長がゲストスピーカーで参加
8. 関口ASBJ専門研究員 日本内部統制大賞－Integrity Award－ 会計人奨励賞2011を受賞
9. ASBJオープン・セミナー【第10回～第12回】を開催
10. FASFセミナー「有価証券報告書の作成上の留意点（平成23年3月期提出用）」を開催
11. 関西経済連合会主催セミナーに新井副委員長が講師として参加
12. 中部経済連合会とASBJ/FASF意見交換会を実施
13. プロジェクト情報（2011年3月31日現在）
14. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準等の開発（2011年2月1日～2011年3月31日）

- 1) 【DP】[「金融商品会計基準（金融負債の分類及び測定）の見直しに関する検討状況の整理」](#)の公表（2011年2月25日）  
（コメントの募集は2011年4月25日までとなっています。）
- 2) 【Final】[改正実務対応報告第5号「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）」](#)の公表（2011年3月18日）
- 3) 【Final】[改正企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」](#)等の公表（2011年3月25日）
- 4) 【Final】[改正企業会計基準第12号「四半期財務諸表に関する会計基準」及び改正企業会計基準適用指針第14号「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」](#)等の公表（2011年3月25日）

### 【凡例】

DP：論点整理・検討状況の整理

Final：会計基準/適用指針等（最終）

## 2. 企業会計基準委員会の概要（第218回～第221回）

### 1) [第218回（2011年2月3日開催）](#)

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>a. 公開草案「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）（案）」【公表議決】</li><li>b. 金融商品専門委員会における検討状況（金融負債）</li><li>c. 後発事象に関する会計基準の検討</li><li>d. 無形資産に関する検討</li><li>e. 企業結合専門委員会における検討状況</li></ol> |
|---|

<ol style="list-style-type: none"><li>f. 金融商品専門委員会における検討状況（ヘッジ会計）</li></ol>
---

<ol style="list-style-type: none"><li>g. 四半期会計基準等の改正に関する検討</li></ol>
--

a. 連結納税制度を適用する場合の実務対応報告の改正に係る公開草案の公表の議決が行われました。

当該実務対応報告は、税制改正に伴う連結納税制度の変更を受けて平成22年6月に改正されていますが、今回の改正は、実務上の取扱いの一部追加・明確化を行うものです。

b. 次回委員会での検討状況の整理の公表議決を前に、文案の検討が行われました。

c. 後発事象に係る会計基準の検討が行われました。

会社法と金融商品取引法の公表承認日の間には、差異が生じますが、会社法の計算書類において定める時点以降に発生した金商法の財務諸表における修正後発事象の取扱いをどうするかを検討が行われました。

財務諸表の修正を要求する案と、開示後発事象に準じて取り扱う案が考えられていますが、いずれにも長所・短所があり、まだ方向は定まっていません。

d. 開示項目と使用可能に至る前の無形資産の減損会計の取扱いについての検討が行われました。

e. 包括利益の表示、全部のれん方式の取扱い、逆取得の取扱い等の論点についての検討が行われました。

f. IASB 公開草案「ヘッジ会計」に対するコメントの検討が行われました。

g. 四半期会計基準の改正に係る公開草案に対するコメントの紹介が行われました。

作業負荷の軽減が図られることから、支持する作成者からのコメントが多くみられました。

## 2) 第219回 (2011年2月17日開催)

- a. 「金融商品会計基準（金融負債の分類及び測定）の見直しに関する検討状況の整理（案）」【公表議決】
- b. 四半期会計基準等の改正に関する検討
- c. 後発事象に関する会計基準の検討

a. 金融負債の分類及び測定に関する検討状況の整理の公表の議決が行われました。

検討状況の整理は、IFRS第9号を基礎にしており、測定については、原則として、当初認識後、償却原価で測定することが考えられています。

ただし、売買目的の金融負債及びデリバティブについては、公正価値で測定し、評価差額が純損益として認識されます。

また、一定の要件を満たすことを条件として、いわゆる公正価値オプションの適用を認めることが考えられています。

なお、その他の包括利益に認識された金額については、リサイクリングを禁止する案とリサイクリングを要求する案を併記し、コメントを求めています。

b. 四半期会計基準改正の公開草案に対するコメント対応の検討が行われました。

コメントを受け、開示の省略及び任意開示に係る継続性の論点が追加論点として取り上げられました。

c. 会社法の計算書類において定める時点以降に発生した金融商品取引法の財務諸表における修正後発事象の取扱いについての検討が行われましたが、産業界には、財務諸表の修正を求める案に反対する意見が多くあります。

既存の差異でもなく、IASBとFASBのMoU項目でもない当該論点を今検討することによる実務への影響・混乱を危惧しているものです。

## 3) 第220回 (2011年3月3日開催)

- a. 四半期会計基準等の検討
- b. 「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）（案）」に係る公開草案に対するコメント紹介
- c. 後発事象に関する会計基準の検討
- d. 金融商品専門委員会における検討状況（IASBヘッジ対応）
- e. 金融商品専門委員会における検討状況（IASB減損対応）

a. 前回に引き続き、年度内あるいは年度間の継続性に関する論点の検討が行われました。

年度内の継続性については、従来どおり、開示の継続性を求めることとし、年度間の継続性については、企業の判断に任せ、継続性を求めない方向で検討が行われました。

このほか、前年度に開示していないものを当期に開示する場合の比較情報としての前期情報の開示の取扱いについての検討が行われました。

b. 連結納税制度に係る実務対応報告の改正公開草案に対するコメントの紹介と、その対応が検討されました。

c. 後発事象に関して、複数の委員から実務への影響を勘案し、慎重に進めるべきとの意見がありました。これを受けて、今後、慎重に進めることが事務局より報告されました。

d. IASB公開草案「ヘッジ会計」に対するコメントの検討が行われました。

e. 2011年1月31日にIASB/FASBから公表された「金融商品：減損」の補足文書（2009年11月に公表した公開草案を補足するもの）の概要説明が行われました。

### 3) [第 221 回 \(2011 年 3 月 17 日開催\)](#)

- a. 改正企業会計基準「四半期財務諸表に関する会計基準 (案)」等【公表議決】
- b. 改正企業会計基準「連結財務諸表に関する会計基準 (案)」等【公表議決】
- c. 改正実務対応報告「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い (その 1) (案)」【公表議決】
- d. 金融商品専門委員会における検討状況 (IASB 減損対応)

a. 四半期報告の大幅な簡素化に対応するための四半期会計基準等の改正の公表議決が行われました。公開草案からの大きな変更はありません。

第 1 及び第 3 四半期の四半期キャッシュ・フロー計算書については、所要の注記を前提に省略することが可能とされました。

四半期損益計算書および包括利益計算書の開示対象期間については、期首からの累計期間の情報とされました。また、四半期会計期間を任意に開示することも認められています。

このほか、注記事項についても、多くの箇所での簡便化、削減が図られています。

b. 「特別目的会社の取扱い」につき、資産の譲渡者のみをその対象とするよう検討が行われてきましたが、その公表議決が行われました。

平成 25 年 4 月 1 日以降開始する連結会計年度の期首からの適用とされています。

c. 連結納税制度を適用する場合の実務上の取扱いの一部追加・明確化を行うための実務対応報告の改正が議決されました。

d. IASB による補足文書「金融商品：減損」に対するコメント検討が行われました。

3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2011 年 2 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

1) [IASB 公開草案「ヘッジ会計」に対するコメント](#)を提出 (2011 年 3 月 9 日)

### 4. IFRS 財団 [鶯地隆継氏を IASB 理事に指名](#)

国際会計基準審議会 (IASB) の監督機関である国際財務報告基準財団 (IFRS 財団) の評議員会は、2011 年 2 月 25 日、[鶯地隆継氏](#)を IASB の理事に指名することを発表しました。当初の任期は 2011 年 7 月 1 日からの 5 年間で、その後に任期 3 年の再任が可能となっています。

[鶯地氏](#)は、現在、住友商事株式会社のフィナンシャルリソーシズグループ長補佐を務め、IFRS 解釈指針委員会の委員、日本経団連の IFRS 導入準備タスクフォース事務局長、企業会計基準委員会 (ASBJ) のアドバイザーに就任されています (理事に就任する際に現在の役職を退くこととなります)。

### 5. 第 11 回各国基準設定主体会議 (NSS 会議) に加藤副委員長が参加

2011 年 3 月 24 日 (木) 及び 25 日 (金) の 2 日にわたり、ニューヨークで各国基準設定主体会議 (NSS 会議) が開催されました。

米国財務会計基準審議会 (FASB) 主催のもと、英国、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、オーストラリア、韓国、インド、マレーシア、香港、南アフリカ等計 26 の国と地域の会計基準設定主体と欧州財務報告諮問グループ (EFRAG)、国際公会計基準審議会 (IPSASB) 等の関係機関から総勢 62 名の参加がありました。ASBJ からは、加藤副委員長、吉岡 (亨)

研究員の2名が参加しています。

本会議は、各国の基準設定主体が取り組んでいる研究プロジェクトを議論し、IASBの基準開発へのインプットやサポートを行うことを目的とするものであり、今回は以下のテーマについて議論が行われました。

	議題	担当
<b>3月24日(木)</b>		
1	IASB 作業計画	カナダ
2	IAS 第41号：農業	マレーシア
3	財務報告における事業モデル	EFRAG
4	適用後レビュー	IASB
5	開示フレームワーク	EFRAG
6	開示及び表示に関する代替的アプローチ	オーストラリア(AASB)
<b>3月25日(金)</b>		
7	各国の時事的な問題	各国
8	共通支配下取引	EFRAG
9	各地域グループからの報告(AOSSG、EFRAG)	ASBJ/AASB EFRAG
10	基準設定の質的特性	AASB
11	NSSグループの運営について	議長

## 6. 韓国会計基準委員会 Chung Woo Suh 委員長来日、西川委員長と対談



2011年2月15日、16日の両日、韓国の会計基準設定主体である韓国会計基準委員会(KASB)のChung Woo Suh委員長が来日され、2011年より上場企業へのIFRSの

強制適用を開始した韓国の経験を交え、日本の市場関係者及び企業会計基準委員会(ASBJ)の委員、スタッフとIFRSに関する意見交換を行いました。

この機会に、ASBJの西川郁生委員長との対談を行っていただき、韓国でのIFRSの導入の背景や現状、IFRSの個別論点に関する懸念等を伺いました。

[対談の詳細はHPに掲載していますのでどうぞご覧ください。](#)

## 7. IFRS Conference in Taiwan に西川委員長がゲストスピーカーで参加

2011年2月23日に台湾・台北市において、現地の会計基準設定主体である財務会計準則委員会(FASC、日本の企業会計基準委員会に相当)の運営母体である財団法人会計研究発展基金会(ARDF、日本の財務会計基準機構に相当)の主催で、2011 IFRS Conference in Taiwan(以下、「カンファレンス」という。)が、開催されました。台湾内の財務諸表作成者や監査人をはじめとする市場関係者およそ160名を迎え、日本からは国際財務報告基準(IFRS)財団の島崎憲明評議員及びASBJの西川郁生委員長が参加し、FASCのConrad Chang委員長と共に基調講演を行いました。



この基調講演では、島崎評議員は、IFRS財団の活動の現状と、日本国内でのIFRS適用に向けた取組みについて、西川委員

長は日本基準の IFRS へのコンバージェンスの取組みや、IFRS の適用に向けた ASBJ の活動状況についてそれぞれ説明しました。



両氏は、カンファレンス後に、FASC の Chang 委員長、台湾の4大会計事務所の日系企業担当者及び会計学者を交え、台湾における日系企業の IFRS 適用に係る論点及び、台湾での IFRS 適用に関する諸問題について意見交換を実施しました。

また、翌日に両氏は、現地の金融監督官庁である行政院金融監督管理委員会 (FSC, 日本の金融庁に相当) と台湾公認会計士協会を訪問し、主に日本、台湾での IFRS の適用に関する諸問題についての意見交換を実施しました。

## 8. 関口 ASBJ 専門研究員 日本内部統制大賞－Integrity Award－会計人奨励賞 2011 を受賞

ASBJ の関口智和専門研究員が、この度、日本内部統制大賞－Integrity Award－審議会から「会計人奨励賞 2011」を授与されました。

「日本内部統制大賞－Integrity Award－」は、内部統制システムが効率的な企業経営を行うために重要であることを示していくとともに、コンプライアンス重視の誠実か

つ透明性の高い経営が中長期的に見て市場で高い競争力を持つことを評価しつつ、こうした意識の高い企業を社会的に応援することを目的としています。

その中で、「会計人奨励賞」は、21世紀の経済社会における公認会計士等の会計専門職業に関わる会計人に対する期待は極めて大きく、また果たすべき責任も大変大きくなってきていることを踏まえ、毎年、(1) 幅広く会計業務に邁進し、わが国会計社会の発展に向けて貢献している者、(2) 会計監査関連業務およびそれらの役割等についての広報活動に貢献した者に授与し、その栄誉を称えることとしているものです。



なお、その他の受賞者の方々は以下のとおりです。

- ✓ 会計人奨励賞 2011
  - 林總 氏 (公認会計士、LEC 会計大学院教授)
- ✓ 日本内部統制大賞 2011－Integrity Award－
  - 最優秀賞  
コマツ
  - 優秀賞  
積水ハウス株式会社  
帝人株式会社

## 9. ASBJ オープン・セミナー【第 10 回～第 12 回】を開催

ASBJ 及び財務会計基準機構 (FASF) では、国際的な会計の動きを迅速にフォローでき

る ASBJ ならではの最新情報の提供を行い、IFRS 導入に向けての環境整備に貢献すること、及び FASF 会員へのサービス向上を目的として、本年度より ASBJ オープン・セミナー：「IFRS の最新動向と我が国への導入」を全国主要都市にて開催しています。

今回は、IASB による基準開発の動向と我が国の対応、IASB における金融商品会計プロジェクトの解説といった IFRS 昨年の最新動向に加え、金融庁から企業開示行政の動向についてご解説をいただき、更には 12 月に公表した四半期会計基準の公開草案の内容についても併せて解説する内容で、2 月 18 日大阪（大阪銀行協会）、2 月 25 日名古屋（デザインホール）、3 月 4 日東京（よみうりホール）においてそれぞれ開催いたしました。3 会場合計で 1300 名を超える聴講者が来場されています。ちなみに東京会場におけるプログラムは以下のとおりです。

第 12 回 3 月 4 日東京（よみうりホール）

講演タイトル	講演者
FASF からの挨拶	高橋秀夫 FASF 事務局長
企業開示行政の動向について	古澤知之 金融庁総務 企画局企業開示課長
「四半期財務諸表に関する会計基準」等の改正（案）	新井武広 ASBJ 副委員長
IASB による基準開発の動向と我が国の対応	西川郁生 ASBJ 委員長
IASB における金融商品会計プロジェクト	加藤厚 ASBJ 副委員長

なお、第 12 回東京会場におけるセミナーの様子は、FASF 会員の皆様には [ASBJ Web セミナー](#)にて映像とともにご覧頂けます

（2011 年 6 月 22 日までの期間限定配信となります）。

## 10. FASF セミナー「有価証券報告書の作成上の留意点（平成 23 年 3 月期提出用）」を開催

FASF では、4 月 5 日より東京（3 回）、大阪、名古屋、福岡、札幌、金沢、広島、高松の全国 8 都市にて 10 回にわたって「有価証券報告書の作成要領（平成 23 年 3 月期提出用）」のセミナーを開催しました。当セミナーでは、併せて金融庁総務企画局企業開示課から「ディスクロージャー制度をめぐる最近の動向等」についての説明が行われました。

セミナーの参加者は、延べ約 4,000 人と関係者の関心の高さを伺わせる、盛況なものとなっています。

## 11. 関西経済連合会主催セミナーに新井副委員長が講師として参加

3 月 24 日に関西経済連合会主催で行われた関西経済連合会会員企業向けのセミナーに ASBJ の新井副委員長が講師として参加しました。

当日は、最近の会計基準の開発に関する動向について、特に四半期会計基準の見直しの概要を中心に解説を行いました。

## 12. 中部経済連合会と ASBJ/FASF 意見交換会を実施

ASBJ/FASF では、地方における FASF 会員企業、会計関係者とのコミュニケーションの強化を目的とした意見交換会を実施しています。

特に、IASB による最新の基準開発の動向やその背景、ASBJ による基準開発の経緯や内容、今後の展望など、ASBJ のホー

ムページや新聞記事、雑誌記事などだけでは伝わりにくい最新の情報を直接お伝えし、またご要望を承ることは、国内の会計基準の開発における ASBJ の役割に対する理解を深め、IFRS 導入に向けた環境整備を我が国全体でフォローしていく意味でも有意義なことと考えています。

今回は、2月25日に名古屋で中部経済連合会の皆様と意見交換会を開催いたしました。

意見交換会では、冒頭、高橋 FASF 事務局長から、FASF に対する日頃の協力への謝辞と、運営への一層の協力をお願いしたあと、都 ASBJ 常勤委員より、ASBJ の活動状況として、①IASB による基準開発の動向、②ASBJ のプロジェクト計画、③最近の公表物（四半期会計基準の公開草案）、④ASBJ の国際活動、⑤その他（非上場会社の会計基準に関する懇談会の検討結果等）についてそれぞれ資料に基づき説明しました。参加者からは、会計基準を巡る今後の動向や四半期会計基準の公開草案などについて熱心に質問が寄せられました。

今後も継続して、このような取組みを実施していきたいと考えています。



13. プロジェクト情報(2010年12月17日公表のプロジェクト計画表に基づく)  
2011年3月31日現在

	2010 Q4	2011 Q1	2011 Q2	2011 Q3	2011 Q4
<b>既存の差異に関連するプロジェクト項目</b>					
企業結合 (ステップ 2)		ED	Final		
無形資産		ED	Final		
<b>IASB/FASB の MoU に関連するプロジェクト項目</b>					
1 連結の範囲			ED		
2 財務諸表の表示 (フェーズ B 関連) (非継続事業)				ED	
3 収益認識		DP		ED	
4 負債と資本の区分					
5 金融商品 (金融資産の分類と測定) (金融負債の分類と測定) (減損) (ヘッジ会計)				ED	
6 公正価値測定・開示			Final		
7 退職給付 (ステップ 1) (ステップ 2)		Final			
8 リース	DP			ED	
9 認識の中止		DP		ED	
<b>IASB/FASB の MoU 以外の IASB での検討に関連するプロジェクト項目</b>					
引当金					
排出権					
保険					
<b>IASB/FASB の検討項目以外の項目</b>					
特別目的会社		Final			
四半期	ED	Final			
後発事象		ED	Final		

\* : 既存の差異等に関する改正

[適用]

- DP 論点整理
- DP2 検討状況の整理 (会計基準等の方向性を示すことを目的に公開草案の前に文案に近い形で公表するもの)
- ED 公開草案
- Final 会計基準/適用指針 (最終版)

斜体文字は終了したイベントを表しています。

## 14. お知らせ

### 1) 刊行物のご案内

- ① 機関誌「季刊 会計基準」第 32 号  
(2011 年 3 月 15 日刊行)

#### 【主な内容】

- ✓ 特集 1：“変わる四半期財務諸表”
  - 座談会「新しい四半期開示への期待」 他
- ✓ 特集 2：IASB 公開草案「保険契約」を読み解く
  - IASB 公開草案「保険契約」概要
  - 関係者からの意見発信 他
- ✓ Accounting Square：“IFRS 財団の次期戦略レビュー、次の 10 年を見据えて”…藤沼亜起 IFRS 財団 Trustee 副議長
- ✓ CFO Letter：“国際競争力と会計制度”…村岡富美雄 株式会社東芝 取締役代表執行役副社長
- ✓ Chairman’s Voice：“ASBJ の基準開発の取組みとプロジェクト計画”…西川郁生 ASBJ 委員長
- ✓ 特別企画：ASBJ オープン・セミナー「IFRS の最新動向と我が国への導入（第 9 回）」 セミナー・レポート 他

- ② 有価証券報告書の作成要領（平成 23 年 3 月期提出用）（4 月中旬より順次発送予定）

本書では、平成 23 年 3 月期提出用の有価証券報告書を作成する上での各項目の記載事例や根拠条文等のほか、作成上の留意点を掲載しています。

※ご購入は[こちら](#)。

※第 30 号より、FASF 会員の皆様は、季刊会計基準に掲載される記事が[ホームページ（会員専用サイト）](#)よりご覧いただけます。どうぞご利用くだ

さい。

### 2) ASBJ Web セミナーのご案内

ASBJ/FASF では、FASF 会員の皆様が ASBJ の開発する会計基準や ASBJ/FASF の活動をより分かりやすく効率的に理解していただくために、ASBJ Web セミナーをホームページ（会員専用サイト）で提供しています。

最近では、

- ① ASBJ オープン・セミナー：IFRS の最新動向と我が国への導入（第 9 回）「IFRS の流れをつくるもの」（2011 年 1 月 24 日、よみうりホールにて収録）【5 月 10 日までの期間限定配信】
- ② ASBJ オープン・セミナー：IFRS の最新動向と我が国への導入（第 12 回）「四半期財務諸表に関する会計基準（案）等について」（2011 年 3 月 4 日、よみうりホールにて収録）【6 月 22 日までの期間限定配信】

の 2 本を新しいコンテンツとして掲載していますので会員の皆様はどうぞご利用ください。

#### “ASBJ Newsletter”（第 20 号）

2011 年 4 月 20 日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人：下村昌作

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：[publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax：03-5510-2712